

厳戒封印  
袋とじ付録

# アート女性器写真

としての  
**世界の4大巨匠** これがその「作品」と創作現場だ

1人の女性の「局部」だけ2000枚撮り続けた男アンリ・マッケローニ登場!!

## 袋入り豪華図録 春画の秘宝

大英博物館秘蔵・絢爛絵巻

これぞ最高峰! 喜多川歌麿コレクション

1万4000人アンケート

## 「あまちゃん」総選挙

1番好きなキャラクターは誰? 今週のネタバレ アキは太巻の隠し子?

## 史上最大のSEX大調査

50代女性「燃え盛る性欲」がこわい

謎の美女YURI  
まだ未公開写真

# 週刊ポス

2013 JUL.  
7.19/26

大增ページ! 付録満載! 猛暑御見舞い合併・特大号

420yen

大16最新  
特集集

小沢一郎と西郷隆盛  
皇太子・雅子妃バッシング「元凶」は安倍だ小林  
オバマに嫌われ中韓に見下される安倍外交



もうここいらでよか……  
この時期だからあえて問う  
参院は本当に  
必要か?

「ブラック企業叩き」で誰が得しているのか  
消えた政府「節電キャンペーン」の怪しい裏側  
新連載「孤独の研究 中森明菜とその時代」安田浩一

## 女子アナ「婚活物語」

## 女尊男卑 行きすぎではないか

カラオケからショッピングまで「レディース割引」ばっかり  
そもそも飲み会、合コンで男が高いのはおかしい  
「全役員の半数を女性に」へのたまらない違和感

## 「マイホームとお金と人生設計」

住宅ローンは「固定」か「変動」か  
消費増税前か増税後のローン控除か

「ちの最新治療」  
恥ずかしくて  
人に聞けない



「女性器とは、エロティシズムの頂点であると同時に、後世に遺すべき芸術だと確信している」  
—アンリ・マッケローニ

アンリ・マッケローニ／1932年、フランス・ニース生まれ。ポスト超現実主義の画家・写真家として活躍。68年から、71年に世界初の女性器写真集『ア・ノワール・コルセ・プリュ』を発表。83年、作家のミシェル・ビュトール氏とともにニースに現代芸術国立センターを設立。2000年には「ある女性の性器写真2000枚」を出版した。女性器アートの第一人者として知られる。



1人の女性の性器を2000枚撮り続けた男

アンリ・マッケローニ



女性器の美しさを力説するマッケローニ氏



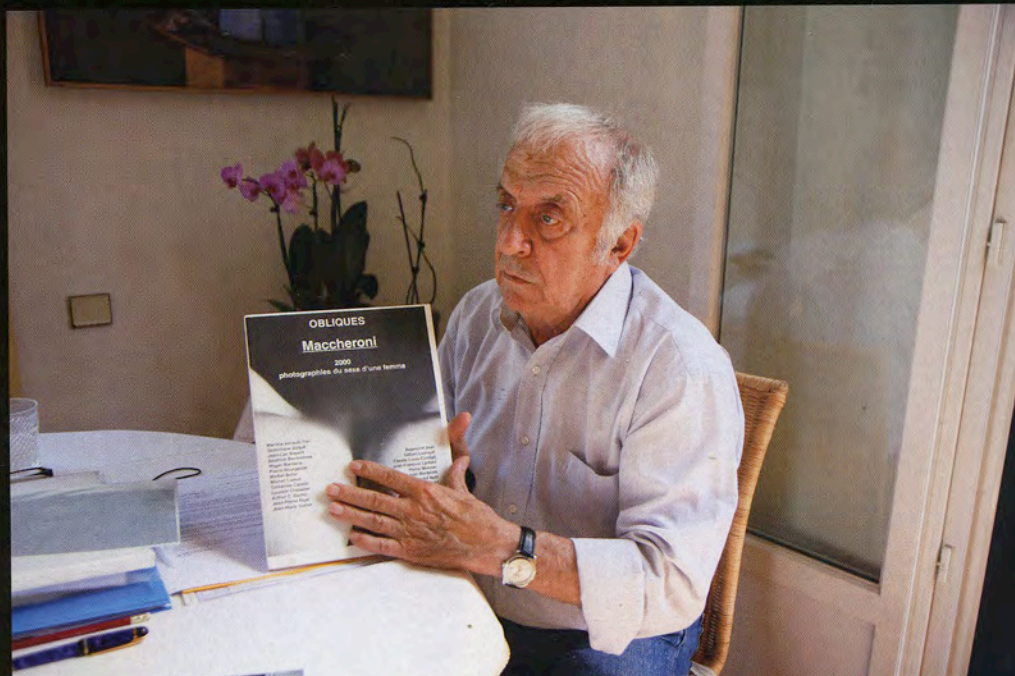
上＝マッケローニ氏の作品のひとつの再現イラスト。クリトリスから小陰唇のヒダに至るまで接写されている。

過去に日本で展示を拒否された、モナリザの顔に女性器をコラージュした作品を手に。

らし、それとても美しいと感じた。写真に収め、後世に遺すべき芸術だと確信した」  
以降、その女性性は3年間にわたってマッケローニ氏のモデルを務めた。その間撮影された女性器写真は実に2000枚。彼女の秘蔵は、前述した世界初の女性器写真集、そして00年出版の『ある女性の性器写真2000枚』などに収録されている。女性性の正体はいまだ明かされていない。世界中から評価されるマッケローニ氏の作品だが、日本では過去に作品展示を拒否された。現在、国内で彼の作品を確認する術は、過去に都内の画廊が出版した限定950部の写真集を手に入れる以外にない。  
「73年のことだ。モナリザの顔の部分が女性器になっている作品を日本へ送ったが、複数の美術館から猥褻作品だとみなされて展示には至らなかった。日本には春画など大変興味深いエロティシズムの文化と歴史がある。それなのに拘り定規な規制があることにとても驚いている。私にとって女性器とは芸術の頂点にあるもの。ポルノだとは一度も考えたことがない」



マッケローニ氏が手にした写真は、小陰唇と膣入口のアップ。



女性のお尻と性器が逆さに大写しにされた作品が写真集の表紙となった。 photo by Miquel Benitez

1人の女性の性器を2000枚撮り続けた男

1人の女性の局部を2000枚撮り続けた男が、  
彼らは「最高の芸術家」と称賛され、その作品は  
誰もが目にすることができるよう

# 女性器アートの 4大巨匠

人はなぜ  
「その場所」に魅せられるのか？  
人間存在の根源に迫る

警告

これは芸術作品です。しかし日本ではいまだ認知されていないのが現状です。  
決して人前で開けなうでください。

▲「1/1000」側から切り出すにゆづくりはがして「1/1000」をご覧ください。



—571人の女性器石膏模型はもはや革命である

## ジェイミー・マッカートニー



上写真で女性が見つめるのが、マッカートニー氏の「The Great Wall of Vagina」。571人分の女性器の石膏模型をずらりと壁一面に並べ

た作品で、小陰唇やクリトリスの大きさ、大陰唇のふくらみなどひとつとして同じものがないことがわかる。(下のイラストは、作品の模式図)

などヨーロッパだけでなく、日本人女性もモデルとなった。同氏が続ける。

「型を取るときは、股間に特殊な液体を流し込む。1分くらいでゴム状に固まるので、そこからそつと剥がして石膏で型を取る。剥がしたばかりの型を女性に見せると、みんな大喜びしていた」

この作品を機に、日本でも女性器アートが「芸術か、猥褻か」という論争が巻き起こった。

ジェイミー・マッカートニー／1971年生まれ。米コネティカット州のハートフォード・アートスクール卒業。英国ブライトン在住。メタル彫造や小道具製作を中心に活動。映画『007カジノ・ロワイヤル』(06年)の小道具も手がける。07年には作品『スパイス・オブ・ライフ』で国際彫刻賞を受賞。



繰り返しになるが、現代アートは女性器の描写なくして語ることができない。今回登場したアーティストたちが美術界に投じた影響について、エロティック・アートに関する著作を数多く執筆する美術史・美術評論家の相馬俊樹氏が解説する。

＊

今回、「週刊ポスト」が日本ではその存在すらほとんど語られてこなかった「女性器アーティスト」たちを特集したことは、この国におけるアートの閉塞状況に大きな一石を投じることと評価したい。

現代女性器アートのパイオニアといえば、フランスのアンリ・マッケローニ氏をいいて他には考えられまい。ただ一人の女性の性器のみを日々撮り続けた膨大な数のクローズアップ作品群は、いわば「下半身の肖像写真」であった。その表情は顔の表情を凌駕するほどに豊かであり、時に美しく、時に驚異的で、また時には神秘的ですらある。それらは男性の欲望を解消するだけの「肉壺」というポルノ的な貧しいイメージを完全に払拭し、その意味を深く考察する「女性器の考古学」へと引き上げられる。

一方、同じく70年代後半にイギリスでも、女性の性器を作品の中心テーマにとり入れたアーティストが現れた。ベニー・スリンガー氏は、東西の神秘主義に精通したニック・ダグラスとのコラボレーションという形で、ポルノ雑誌から切り抜いてきたとおぼしい女性器の写真と東西の様々な神々のイメージを綿密に組み合わせたコラージュを積み上げていった。それらは、神秘的領域に触れようとする宗教的体験とエロスのエクスタシーを融合する試みであった。

今後、若い世代にもこのテーマは引き継がれていくであろう。すでに「週刊ポスト」が取り上げてきた、ベッター・ヘグレ氏やジェイミー・マッカートニー氏の活動を見ても、それは明らかだ。

だが、しっかりとしたコンセプトとスタイルをもって臨まなければ、それを凡庸ならざるものに成熟させるのは難しいこともまた事実である。

女性による、女性のための、女性器アート

## ベニー・スリンガー



上＝作品「Cosmic Yoni」。作品集「Mountain Ecstasy」のひとつで、ヒンズー教の聖なる母(カーリー神)の陰部が開かれ、周囲を恋人たちが取り囲んでいる。本来この作品では中央部と周囲の男女の結合部に無修整の女性器写真が使用されていた。しかし日本ではそのままの形で掲載が難しいため、スリンガー氏が今回のために花のつぼみをあしらったモザイクなどで加工している。

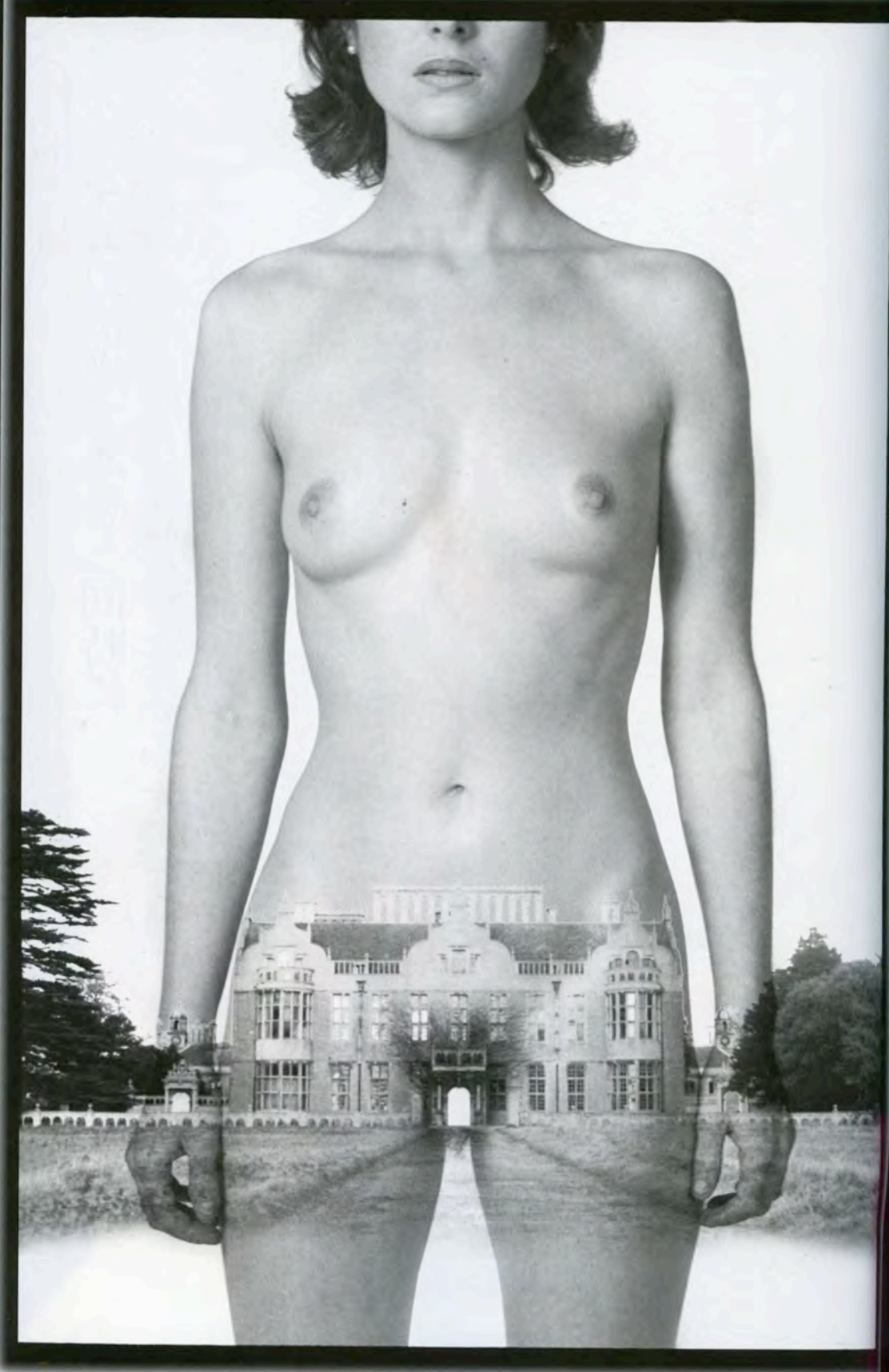
下＝作品「Exorcism Revisited」。70年代のスリンガー氏自身の連作のテーマを昨年作り直したもの。女性が家の暗闇から解放されて音を出す様子を描いた。正面玄関は「再生の扉」としての女性器を象徴している。

女性器に魅力を感じるのは男性だけではない。女流作家にとってもその存在は神秘に満ちている。イギリス出身のアーティスト、ベニー・スリンガー氏は、活動初期から女性器をモチーフに用いてきた。女性が肉欲や性欲を自由に表現する権利を勝ち取りたいと思ったからだ。

78年に発表した作品集「Mountain Ecstasy」は、インドの密教タントラから大いなるインスピレーションを受けるなど、幅広く創作の幅を広げ



photo by Dhiren Dasu



年齢・人種を超えた「剃毛女性器」で8億円御殿を建てた男

## ベッター・ヘグレ



photo by Miquel Benitez

「Yプロジェクト」は、18歳から80歳まで、多種多様な国籍・人種の女性20人の剃毛した下腹部をアルファベットの「Y」に見立てて接写したものである。日本では作品をあるがままの形でお見せできないのが残念だが、右上の4

若い女性たちのナチュラルな姿を切り取るヌード作品に定評があるベッター・ヘグレ氏。彼が12年前に発表した「Yプロジェクト」は、非常にセンセーショナルなアート作品だった。

陰部の形状にフォーカスを当てるため、モデルたちは陰毛をすべて剃っている。様々な人種の女性がモデルとなっているが、あえて肌の色を白く加工している。

ヘグレ氏が、作品製作の苦労を振り返る。「大変だったのは、当初は疑心暗鬼だったモデ



女性器と真正面から向き合ったヘグレ氏の作品を見たい方は、<http://WWW.hegre-art.com>へアクセス

ベッター・ヘグレ／1969年、ノルウェー・スタヴァンガー生まれ。米カリフォルニア州サンタ・バーバラのブルックス写真専門学校を卒業後、ニューヨークで研鑽を積む。2002年、hegre-art.comを開設。世界最大級のエロティックアート写真に発展させた。左は彼の作品の一部だ。